

竹内 二郎（たけうち・じろう）

1、プロフィール

詩人。昭和初期から詩作する。「座標」等に作品を発表。闘病のかたわら詩誌「榎」「壺年」「北」などに発表。「ぱんせ」を発行し後進の指導にあたる。詩集『旧約』がある。

<生没>

1912(明治 40)年 10 月 16 日 ~ 1957(昭和 48)年 7 月 16 日

<代表作>

詩集『旧約』。

詩誌「ぱんせ」発行。

<青森との関わり>

下北郡川内町生まれ。黒石市で書店を開き、詩誌「ぱんせ」発行。黒森山浄仙寺に詩碑がある。

2、作家解説

明治 40 年、青森県下北の農場で出生。幼年に父と死別。昭和 2 年上京し、役所勤めとなる。2 年後に退職。この前後から詩作が始まる。以後昭和 40 年までの 35 年間、発刊された唯一の詩集『旧約』に収められた詩は、わずか 43 編。寡作である。昭和 5 年青森県野辺地町青森種馬所に勤務。この間文芸総合雑誌「座標」、詩誌「北」、「東奥日報」に作品を発表する。

昭和 12 年熊本種馬所に転勤。島川れいと結婚し、赴任。しかし、結核に罹り、療養。その後妻も罹患する。生活できず双方不本意ながら協議離婚。まもなくれい死去。戦後発行した詩誌「壺年」に「哀れな歌」を発表。妻への鎮魂歌ともいえるこの詩は、熊本での新生活から、その離別の日までつづく思慕の情がうたわれている。なお詩集『旧約』の題を詩人は「哀れな歌」とつけようとしたほど、長い間詩人の中に繰り返されたモチーフであった。

戦後健康を回復し、再婚する。黒石市で書店を開業し、精力的に経営する。それは貧乏な詩人のために少しでも援助するためであった。事実、昭和 25 年詩誌「ばんせ」を発行し、物心両面で後進の指導にあたる。

しかし、過労のため倒れ、以後死ぬまで入院療養生活を送る。

昭和 40 年船水清、北島一夫、藤田勇三郎、安田一次らの手により詩集『旧約』刊行。

昭和 48 年 7 月病院で死亡。享年 65 歳。

3、資料紹介

○『旧約』

図書

1965(昭和 40)年 10 月 25 日

185mm × 135mm

題名は旧約聖書とは関係なく、詩人は「古い」ということを新感覚的に伝えるという考えからつけた。巻末に船水清「竹内二郎の人と作品」の一文がある。113 頁から為る。200 部限定出版。津軽書房刊。